

大洋州における非感染性疾患への JICA 海外協力隊看護師の活動—トンガでの例—

Nursing activities for NCDs by JICA 's Volunteers in Oceania Countries—Activities in Tonga—

○森淑江¹, 亀ヶ谷忠彦², 高橋恵里³

Yoshie Mori, Tadahiko Kamegaya, Eri Takahashi

1 群馬大学, 2 群馬医療福祉大学, 3 東北福祉大学

Gunma University, Gunma University of Health and Welfare, Tohoku Fukushi University

【背景と目的】

現在、世界の死亡数の約 3 分の 2 は非感染性疾患 (Non-Communicable Diseases: 以下 NCDs) によるものであり、その約 80% が途上国で起こっている。大洋州の 10 か国では NCDs は死因の第 1 位で、世界の高肥満率 10 か国中 8 か国が大洋州の国であり、NCDs は健康上の大きな問題となっている。

2011 年の国連総会ハイレベル会合では各国の非感染性疾患対策に国際社会は協力して取り組むべきと宣言されている。2012 年の WHO 公式加盟国会合では自発的世界目標が提示され、死亡・罹患の指標、行動危険因子の指標、国内政策の対応として合計 9 個の目標が設定された¹⁾。これに対して途上国では WHO の Package of Essential Noncommunicable Disease Intervention for Primary Health Care in Low Resource Settings (資源に乏しい環境のプライマリヘルスケアにおける基本的な非感染性疾患介入策の包括的計画: 以下 PEN と略す) に沿い、喫煙対策、アルコール対策、健康に良い食事、運動の推進の 4 つを実施している。しかし PEN で示された 4 方策のうち、‘健康に良い食事’と‘運動の推進’に関する取り組みは進んでいない。特に運動について大洋州は熱帯性気候のため、日中に行いにくく、裸足で外を歩く習慣も日中の運動を妨げる要因となっている。

研究者らは大洋州での運動療法の可能性を検討するため、トンガで医療者や患者を対象とした面接調査を実施し、研究成果を発表した²⁾。

トンガに対して日本は NCDs 対策として青年海外協力隊員 (以下、隊員とする) を派遣しており、本研究では NCDs 対策として看護師隊員たちがどのような活動を行っているかを明らかにすることを目的とした。

【方法】

2019 年 9 月末までにトンガに派遣された 558 名の青年海外協力隊員の中で、青年海外協力隊看護師隊員中、派遣要請目的が NCDs 対応の隊員の活動報告書 (5 冊/人) を熟読して活動項目を抽出し、分析を行った。

青年海外協力隊員の活動報告書は国民に公開されている。本研究では報告書作成者が特定されないように配慮した。

【結果】

558 名中保健医療関係の隊員は 53 名おり、その中で看護師隊員は 9 名いた。そのうち NCDs への対応を目的として派遣された隊員は 4 名であり、全員 NCDs のクリニックで活動していた。

症状が出てから来院する患者が多くみられた。

クリニックでの NCDs 対策に関連する隊員の主な活動は、患者への対応と地域住民への活動とが行われていた。

患者に対しては、個別の食事指導、受診前の健康教育、糖尿病患者に対してのフットチェック、家庭での創傷処置に関する指導、家庭菜園づくりの指導、受診中断者のリスト作成や訪問活動などが行われていた。患者に対する運動療法の指導についての記載はほとんど見当たらなかった。

地域住民に対しては、クリニックに近い教会での定期的にウォーキングやエクササイズなどの指導、地域での健康教育、学校での健康教育などが実施されていた。子どもたちには非常に虫歯が多く、子どもからの生活習慣の改善の必要性が隊員によって指摘されていた。

【考察】

来院する患者は症状が出てから受診する者が多く、2 次予防または 3 次予防に関する活動が中心となっていた。指導は食事指導が中心であり、運動療法に関する積極的な指導は記載されていなかったが、これは気候による運動療法のしにくさとともに BMI30 以上の肥満の成人が国民の半数以上を占め、NCDs の患者ではそれ以上の肥満により体を動かすこと自体が容易ではないことも関係していると考えられる。しかしそのような患者に対しては食事指導とともに、行いやすい運動プログラムの開発が望ましい。また 1 次予防となる子どもへの健康教育は健康な大人をつくるための鍵であり、クリニックや地域で住民の特徴を理解し密接に関わることができる看護師隊員の活動が期待される。

【利益相反】

利益相反はない。

本研究は 2016～2019 年の科学研究費補助金挑戦的萌芽研究 (課題番号 16K15983) の助成を受けた。

1) 厚生労働省 (2012). 非感染性疾患 (NCDs) の予防管理のための指標と自発的世界目標の策定に関する動向

<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002rkou-att/2r9852000002rkou.pdf> (2022 年 7 月 28 日閲覧)

2) Kamegaya T, Mori Y and Takahashi E. Exercise Habits of Residents of Oceania Countries and Their Impression of Physical Exercise, APOTC Manila 2021, Congress E-book, P121, 2021